

# 一次救命処置(BLS)

## 1 意識レベルの把握

両肩をしっかりとたたきながら大声で呼びかける。乳児の場合は足底を繰り返したたきながら声をかける

2 反応が得られない場合は速やかに大声で周囲に緊急事態であることを知らせ、応援を要請する

3 応援が到着し次第、院内の救急コール、AED、救急カート、バッグバルブマスクを要請する

## 1 呼吸と脈拍の確認

胸と腹部の動きを見て10秒以内に呼吸の有無を判断する

2 同時に頸動脈または大腿動脈に触れて脈拍の有無を確認する



幼児の頸動脈触知

乳児では上腕動脈で触知する



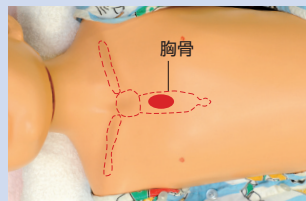
乳児の上腕動脈触知

3 呼吸・脈拍の有無を判断し、速やかに次の対応を行う

- ・正常な呼吸があり脈拍を触知できる場合：気道を確保し、側臥位または回復体位にして応援の到着を待つ
- ・脈拍は触知できるが正常な呼吸がみられない場合：頭部後屈あご先拳上法、下顎拳上法で気道確保
- ・心停止の場合：直ちに胸骨圧迫

## 1 胸骨圧迫の実施

胸の厚さの1/3が沈み込む強さで、1分間に100～120回のテンポで絶え間なく胸骨の下半分を圧迫する



乳幼児の圧迫部位

2 胸骨圧迫の質の低下を最小限にするため、1～2分ごとに胸骨圧迫を交代する

〈片手による胸骨圧迫〉

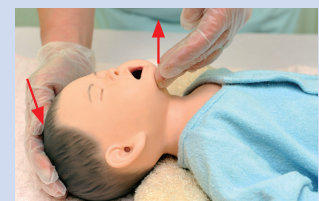


〈両手による胸骨圧迫〉



## 気道確保の実施

頭部後屈あご先拳上法で気道を開通させる（子どもの頭部に片手を添えて後屈させ、もう片手の指で下顎を優しく上方に上げる）



頸髄損傷が疑われる場合は、下顎拳上法で気道を開通させる（子どもの頭側から両下顎角に指をかけ下顎を挙上する）



## 人工呼吸の実施

子どもの体格や状態に合わせた人工呼吸を速やかに開始する

- ・救助者が1名の場合、胸骨圧迫と人工呼吸を30：2の比で行う
- ・救助者が複数名の場合、15：2の比で行う
- ・1歳以上の小児：口対口人工呼吸



口対口人工呼吸：空気がもれないように鼻をつまむ

- ・1歳未満の乳児：口対口鼻人工呼吸

# 気道異物

## 1 異物による窒息が疑われる場合

「何かのどに詰まった?」「あーって言えるかな? お話できるかな?」と尋ねる

## 2 判断し対応する

- ・意識があってもしゃべることができず、喉元をつかむような窒息のサインを示す：直ちに応援を要請、背部叩打法などを開始する
- ・意識がない、または低下：直ちに応援を要請し、一次救命処置(気道確保、胸骨圧迫、人工呼吸)を開始する

## 1 意識(反応)のある乳児(1歳未満)の場合

背部叩打法：看護師(救助者)は片膝をついてしゃがみか座って、乳児を大腿部または膝の上に乗せる。乳児の両肩甲骨の間を、もう一方の手掌の付け根で5回ほど強く叩く



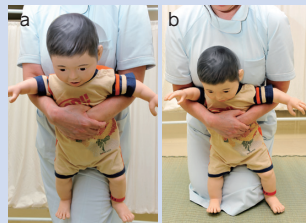
## 2 胸部突き上げ法：背部叩打法を行った後、看護師の前腕上で乳児を仰臥位にする。頭部を体幹より低く保つ。乳児の胸骨の下半分(胸の真ん中)を、2本指を用いて1秒間に1回の速さで5回ほど圧迫する



## 3 背部叩打法と胸部突き上げ法を交互に行い、異物が除去されるまで繰り返す。反応(意識)がなくなったら、直ちに一次救命処置を開始する

## 1 意識(反応)のある子ども(1歳以上)の場合

腹部突き上げ法(ハイムリック法)：看護師(救助者)は子どもの背後に立つ(a)、もしくは膝をついてしゃがみ(b)、子どもの脇の下に両腕を通して抱きかかえる



## 2 子どもの臍と剣状突起の位置を確認する。片方の手で握りこぶしを作り、臍の上方、剣状突起より下方の部位に当てる

## 3 もう一方の手でその握りこぶしをつかみ、すばやく看護師の手前上方に向かって圧迫するように突き上げる。1回の圧迫で異物を除去するようなつもりで行う



## 4 異物が除去されるまで繰り返す。異物が排出されず子どもの反応(意識)がなくなった場合は直ちに一次救命処置を開始する

## 1 背部叩打法：子どもの両肩甲骨の間を、片方の手掌の付け根で強く叩く



## 2 異物が除去されるまで繰り返す。異物が排出されず子どもの反応(意識)がなくなった場合は直ちに一次救命処置を開始する

## 1 意識(反応)のない子どもの場合

大声で周囲の注意を喚起して119番通報・AED手配を依頼すると共に、一次救命処置を開始する

## 2 気道確保の際、咽頭部に異物が目で確認できたら、1本の指でかき出す